

令和元年 12月 25日  
福岡管区気象台

## 地方気象台・測候所における目視観測通報を自動化します

これまで地方気象台・測候所では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測するとともに、晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象、視程（見通しのきく距離）は職員が目視により観測してきました。

近年、気象レーダーや気象衛星等による観測を利用して、総合的に大気の状態を把握できるようになっており、このような技術の進展を踏まえ、目視観測通報を自動化します。

### 1 自動化の開始日

令和2年2月3日（月）

### 2 福岡管区気象台の管内で自動化の対象となる気象官署

下関地方気象台

佐賀地方気象台

長崎地方気象台

熊本地方気象台

大分地方気象台

宮崎地方気象台

名瀬測候所

福岡管区気象台、鹿児島地方気象台では、従前どおり目視観測通報を継続します。

### 3 変更点等

別紙のとおり

問合せ先：福岡管区気象台 気象防災部 観測課 葉山

電話 092-725-3615 FAX 092-716-1755

## 地方気象台等における目視観測通報の自動化について

これまで地方気象台・測候所では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測するとともに、晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象、視程（見通しのきく距離）は職員が目視により観測し、それらの結果を、毎日定められた時刻に気象観測通報として通報してきました。

近年、気象レーダーや気象衛星等による観測を利用して、総合的に大気の状態を把握することが可能となっています。気象庁ではこのような技術の進展を踏まえ、地方気象台・測候所における観測のあり方について見直しを図り、令和2年2月3日から、これまで通報のために職員が目視により行ってきた観測を自動観測通報へ移行するとともに、一部の大気現象等の観測を終了します。

なお、福岡管区気象台、鹿児島地方気象台では、従前どおり目視観測通報を継続します。

### 自動観測に移行する観測種目

- 以下赤枠内の大気現象については、職員による目視観測から自動観測に変わります。

#### 今後、自動で観測する天気や大気現象



- 視程（見通しのきく距離）も、視程計を用いた自動観測に変わります。
- 雷は、これまで職員が目視や聴音により観測していましたが、雷監視システム（LIDEN）と気象レーダーを用いた自動観測に変わります。

### 目視観測通報の自動化に伴い終了する観測種目

- 天気

快晴、薄曇

- 大気現象

現象の分類	目視観測通報の自動化に伴い観測を終了する大気現象
大気水象	雪あられ、氷あられ、ひょう、細氷、凍雨、霧雪、着氷性の雨、ふぶき、しぶき、 <b>霜</b> （注1）、 <b>結氷</b> （注1）、竜巻、 <b>積雪</b> （注2）、 <b>冠雪</b> （注1） 注1）寒候年（前年8月～当年7月）に初めて観測する霜、結氷、冠雪は従来どおり初霜、初氷、初冠雪として記録します。 注2）積雪の深さについては、器械で測ります。（名瀬測候所を除く）
大気じん象	黄砂、煙、降灰、風じん、砂じん嵐、じん旋風
大気光象	かさ、光冠、彩雲、にじ
大気電氣象	電光、雷鳴

- 雲量及び雲形